

完璧なお嬢様の
アヘ声性奴隷改造調教

2013/12/7

Var. 1. 00

シナリオ…不二川 巴人

サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

シーン1

○学校正門

麗美、歩きながら、

「さてと、学校も終わったし、これから習い事ね」

「えーっと？　まずは4時からお花のお稽古で、その次がお茶で……」

「我ながら忙しいわね……」

「でもまあ、ある意味当然よね」

「この、容姿端麗成績優秀、ついでに運動神経も抜群で、トドメに家柄もいい」

「人呼んで『完璧令嬢』の、龍造寺麗美（りゅうぞうじれいみ）様にしてみれば」

「うふふっ」

「うーん、難点があるとするなら、花嫁修業という名の、習い事の数々かしらね……」

「気が休まらないったら……」

「でもでも、私にも、家の名を汚しちゃいけないっていう責任があるわ」

「頑張らないと……!」

「迎えの車は……うん、来てるわね」

「たまには歩いて行きたいけど、『危ないです』って、心配すぎよね……」

麗美、車の側まで来て、

「ああ、ご苦勞様……って、ん？　あなた……いつものお迎えじゃないわね？　何者っ!？」

SE:腹を殴る音

「ぐぶうっ!？　う、うえっ……」

SE:重い物を投げる音（どさっ）

SE:車のドアが閉まる音

SE:車が発進する音

SE:車が走る音（ループ）

「う、うーん……はっ!？　ど、どこへ向かってるの!？」

「え？　着けば分かる……？　まあ、そうですね」

「私を誘拐するなんて、たいした度胸だわ」

「おおかた、身代金目的でしょう？」

「でもね、そう簡単にいくかしら？」

「私のパパは、いろんなところに顔が利くのよ？」

「もちろん、警察にもね。あんたなんて、速攻で警官隊に囲まれて、射殺ものよ。フッフ」

「まあ、せいぜい、短い優越感に浸っているがいいわ」

SE:車の止まる音

SE:車のドアが開く音

「何？ 着いたの？ 降りろって？ はいはい、分かったわよ」

「……ふうん、ずいぶんしみつたれた小屋ね」

「この完璧令嬢を監禁するなら、もっと手の込んだところにして欲しかったところだけど？」

SE:手錠をはめる音

「……フン、まずは、手錠で自由を奪おうって事？」

「いいじゃない。下手に暴れられたら、困るもんねえ？」

「中に入れ？ 分かったわよ」

SE:人を突き飛ばす音（どんっ！）

「あうっ！？」

「ちょ、いきなり突き飛ばさないでよ！ もうちょっと丁寧に……」

SE:服を引き裂く音

「ひいっ！？ ちょ、ちょっと待って！ 何するのっ！？」

「まさか、まさか……！！？」

麗美、恐怖におののきつつ、

「え……察しがいいな、ですって……？ お、おおお、犯す、の……？」

「そんな、いきなり……！！？」

「ややや、やめてっ！ わ、私っ、経験ないのっ！ 処女なのっ！」

「だからやめてっ！ お願っ！」

「知ってる、ですって……！！？ だ、だったらなおのこと……！！」

「ひ、ひいっ……来ないでっ……！！」

「い、いい度胸してるじゃないのっ……この私を傷物にしたらっ……」

「色んなところが黙ってないわよっ……！！？」

「き、きひっ……！！ さ、触らないでっ！」

「うあっ、うああっ、や、やるにしてもっ……もっと、優しくっ……！！」

「おとなしくしろ……だなんて、そんな言葉、聞けると思う！？」

「嫌っ、嫌あああっ！」

麗美、性器を愛撫されて、

「んあうっ、あ、うああっ……！！ そ、そこはあっ……！！ そんな、されたらあっ……！！」

「くはあっ、あ、あうんっ……ん、んくふっ……き、気持ちよくなんかあ……！！」

「はうんっ！ あ、ああああんっ！ んっく……」

「くはっ、あ、あふううっ……！！ 気持ちよくなんか、気持ちよくなんかあ……」

「ふーっ、ふううーっ、素直になれ、ですって？」

「頭おかしいんじゃない！？ こんな状況で素直になんて……」

SE:平手打ちの音（バシッ！）

「きゃああっ！？ い、痛い……」

SD:平手打ちの音（バシッ！）

SD:平手打ちの音（バシッ！）

「あうっ！！ あぐうっ！！ わ、分かったわ……」

「おとなしくするから……ひどいことはやめて……」

「んあうっ、は……うああっ……気持ちいいか？ なんて……聞かないでよ……」

「はふんっ、ん、んふわはあっ……あ、ああんっ……！！」

「ぬ、濡れてなんか……あ、あんんっ……！！」

「んふううっ、ふわっ、んはああっ、あ、あうううっ……」

「ふーっ、ふううーっ、く、悔しい……こんな状況で……感じるなんてえ……」

「んふあっ、あ、あふうんっ、んっく、うあ、はああ……え……？」

「オナニーはしたことあるだろう、って……？」

「……っ、あるわよっ！ 悪いっ！？ 私だって、健全な女の子ですものっ！」

「オナニーの一つや二つ、するわよっ！ ふんっ！」

「う、うるさいわねっ！ スケべなお嬢様で悪かったわねっ！」

「あひっ！？ きゃひいっ！！ そ、そんなあっ……中に指なんてえっ……！！」

「んあっ！ んはあああっ！ そ、そんなっ！」

「かき混ぜないでっ！ 恥ずかしいっ！ 恥ずかしい音があっ……！！」

「はーふっ、はああーふっ、ふはっ、あ、あふううっ……」

「感じてなんか……感じてなんかあ……」

麗美、男の男性器を見て、

「ひっ……！！？ そ、それが……男の……！！？」

「む、無理よっ！ そんな大きなの、入るわけっ……！！」

「やめ、やめ、やめ……え、あ、ああ……」

麗美、挿入されて、

「きゃひっ……！！？ いづっ、うわああああー……っ……！！」

「いいい、痛いっ！ 痛い痛い痛いっ！！ 抜いてっ！」

「今すぐっ！ 抜いてえっ……！！ 痛いっ……！！」

「す、すぐに慣れる……？ 嘘よっ、こんな痛いの、慣れるわけっ……！！」

麗美、いきなり抽送されて、

「はぎゅっ……!!? ぐはっ、がっ、うがはあああっ!!」
「うっ、動かないでえっ!! 痛いっ! 痛いひいいいっ!!」
「がぐっ、んがうっ、ぐぎゅっ……が、ぐわはあああっ!!」
「あがっ! あがうっ!! ぎはっ……ぐ、うぐおほおおっ!!」
「苦しっ……い、いぎはあっ! あぎやうっ! ひぎやおっ! おぎやっ……」
「あがっ、うがはあああっ!!」
「ぜーはっ、ぜえーはっ、ぜはあっ、し、死んじやうっ、身体が裂けちゃうっ!」
「死ぬっ、死ぬううううううっ!!」
「ひーはっ、ひいーはっ、大げさだ……ですって……?」
「ぐううっ、私がどれだけ苦しいかっ……! はぎやおっ!」
再度、激しい抽送に晒されて、
「んぎやおっ! おぎやはっ! ひぎやおおおっ!!」
「おがっ、ぐるっ、ぐるじっ、じひっ、ぎひあっ、あぎやっ、お、ぐはあああっ……!!」
「お、おおお、お腹が熱いっ!」
「や、灼けた鉄の塊をっ! ねじ込まれてるみたいっ!」
「でっ! えっ! えへえええっ!!」
「はーひっ、はあーひっ、はひあっ、あ、あううっ!」
「も、もうっ、やめ……てえっ……! ほんっ、とに……死んじやううっ……!!」
「はーへっ、はあーへっ、へはっ、へはあっ、え……? も、もうすぐ終わる、の……?」
「ひぎやうっ……!? お、お腹の中で、また膨らんでえっ……!!?」
「ま、まさかっ……!!?」
「ままま、まさかっ! 射精するのっ!? このままっ!? 中にっ!?」
「やめてっ!!! それだけはやめてっ!!!」
「お願いっ!! 言う事なら何でも聞くからっ!!」
「ダメだ……って……そんな……あぎゅうっ!? うがっ、あがはあああっ!!」
「やめ、やめ、やめ……え、あ、あ、ああ、あ……!!」
麗美、中出しを食らって、
「きやひいいいいい……っ……っ!!! そ、そんなっ! 出てるっ!」
「ほんとにっ!! 中でっ! 中に出されたっ! あ、あああっ……!!」
「はあっ、はああっ、あ、あう、あうう……ぐすっ、ひっく……うえええ……!」
「よくも、よくもやってくれたわね……! いきなり中出ししてくれるなんてっ……!!」
「……は? じきに、お前からねだるようになる、ですって!」
「フン! そんなことあるもんですかっ!」
「くう……この屈辱は、倍返しどころじゃ済まないわ……」
「パパに言っ、うんとむごたらしく殺してやるっ……!!」

S田：平手打ちの音（バシッ！）

「あうっ！ く、ううう……顔はやめて……」

麗美、ふと尿意を催して、

「ん、んん……？ ね、ねえ、ちよつといい……？」

「どうしたって……え、ええつと、おトイレに行きたくなったのよ」

「連れて行ってくれない？」

「……は？ そんなものはない、ですって！？ じゃあどうすれば……！」

「ここで垂れ流せ！？ 冗談じゃないわ！ 誰がそんな恥ずかしいこと……！」

「じゃあ永遠に我慢しろって……出来るわけないでしょっ！？ う、うううっ……」

「う、うああ、あ、あぐうっ……！ も、もうダメえっ……！」

「も、漏れちゃううっ……！！ あ、や、やあっ！ だ、めえっ……！！」

S田：放尿の音

「いやあああああ——っ……！！ 出、出ちゃったあ……！！」

「止まって、止まってえっ……！！」

「あふっ、あふわっ、あつ、まだ出るっ、まだ出るうっ……！！」

「んは、あ、ふわ、あああ……」

麗美、放尿を終えて、

「はあっ、はああつ、あ、あうう……こんな屈辱、初めてよ……」

「レイプで処女を失ったあげく、人前で失禁姿までさらすなんてっ……！！」

「殺すだけじゃ飽き足らないわ。子々孫々まで呪ってやるっ……！！」

「……ねえ、あれから何日経ったの……？」

「知る必要はない、って……そんな……」

「ん……またするの……？ 私、疲れてるんだけど……あうっ……！」

麗美、愛撫されて、

「はうんっ、あ、あひいうっ……！ は、あんっ！ あはあああんっ！」

「んっく、くは……うああ……！」

「ぬ、濡れやすくなってきたな、なんて……」

「そんな恥ずかしいこと、認めるわけ……んいっ……！」

「はあふっ、はあふうっ！ んっふ、ふわああつ、痺れ、るう……！」

「ふはっ、ふわはっ、あ、ああ……気持ちよくないか、ですって……？」

「わ、分からないわよ、そんなの……！」

「あ、はあんっ！ んっく、ん、やあつ……ふわっ、あ、あふうううっ……！」

「か、身体は正直だぞ……なんて……言わないで……」

「私にだって、よく分からないんだから……」

「あつ、あつ、あつ、あつ！ そ、そんなっ！ またくちゅくちゅしないでえっ……！」

「んはうっ、はううっ、あ、あはあんっ！」

「うっく、くはうっ、あ、あはあああつ……！！ あ、頭があつ……くらくらするう……！」

「ふーっ、ふううーっ、ふーはっ、あ、あうう……欲しいか、ですって……？」

「だから、分からないって言うてるじゃない……。そんな、大きなの……」

「う、うう……入れるの？ もっと足を開けて？ わ、分かったわよ……」

麗美、挿入されて、

「んはっ……！ あ、あぐふうううっ……！！」

「あ、熱い……お腹、熱いっ……！ すご、いっぱい……」

麗美、抽送されて、

「あぐんっ……！ んっく、くはっ、あひいっ……！」

「いあっ、いあはああつ、あ、あんっ！ んはあんっ……！！」

「はあつ、はあんっ、い、いい声を出すようになったな、って……」

「だから、自分でもわけが……」

「はぐふううっ！ うあつ！ うはああつ！ あうんっ！ あはううんっ……！」

「んっく……あはっ、すご、おひいっ……！！」

「あはんっ！ はうっ、うはああんっ！ あいっ、いひいっ！」

「いんっ！ いひううんっ……！ んっく……あ、ふわあああつ……！！」

「感じてるじゃないか……って……そんな意地悪な顔で言わないでよ……」

「私が、認めたいわけ……えひっ!? えいひいいいっ!!」

「んぐ……くひうっ! いひっ! いひへあっ! はうっ!」

「あはうううっ!! うんっ!! んふうんっ!! きひっ、気持ちっ、いつ……!!」

「い、いやっ!! さっきのはナシっ!」

「気持ちよくなんか、気持ちよくなんか……あ、あああんっ!!」

「あひんっ! いひいんっ! すごっ、お、おほおおっ!!」

「奥っ! 叩いてっ! 頭にっ! 響くうっ!!」

「はーひゅっ、はーひゅっ、ひゅはっ、ひ……」

「へはあっ! あっ! あいいっ! いあっ! んはあああんっ!!」

「はあっ! はああっ! あ、ああっ!」

「い、嫌なら止めるか……なんて……え、ええっと……」

「す……好きにすれば……? 私は別に……」

麗美、抽送を止められて、

「えっ……!? ほ、ほんとにやめちやうの……!? ちょ、ちよつと……!」

「う、ううう……てよ……」

「聞こえないって? だから! するなら最後までしなさいよっ!」

麗美、抽送を再開されて、

「んぐっ……あ、うはあああっ! あんっ! んはあんっ! そっ、そう、よおっ……!!」

「くひうっ、あ、あひいいんっ!! こすれ……るうっ……!!」

「熱いっ、あああっ!! お腹が熱いいいいいいっ!!」

「ひーはっ、ひいいーはっ、ひはっ、ふわっ、あ、ああ……いい……いいいっ!」

「悔しいけど!! 気持ちいいっ……!!」

「んふーっ、んふううーっ、やっと素直になったな、ですって?」

「私に火を付けたのは、そっちでしょ? 責任取りなさいよねっ……!」

「んむっ……ふぐおほおおっ!! おあっ! ああっ! あひいっ!」

「いんっ! いいんっ!! すごっ、お、おはあっ! 感じ……るふうううっ……!!」

「うふはっ、はうっ、はぐふううっ!! お腹あ……ねじれるうっ……!!」

「すご、いひいいいっ……!!」

「あうんっ! あんっ! あんあんあんっ!!」

「いいっ! いいのっ! すごいのおおっ!! くっ、うはあああっ!!」

「うぐはっ、ぐはっ、くはうううっ! うんっ! うんうんうんっ!」

「んあっ、あ、はううっ!! かはっ……」

「くひっ、きひいいいっ!! すご、いひいいいっ!!」

「あおっ、あはおおっ、おはあああっ！！ あんっ！ あはあんっ！！」
「しゅごっ、しゅごっ、ごほっ、おごほっ、お腹あ……溶けるう……！！」
「ふぐうあっ……！！？ あ、あああっ！ また大きくなったっ！？」
「出るのっ！？ また中っ！？ そんなっ、ああ、そんなああああっ……！！」
「嫌っ、嫌嫌嫌っ！ 中はやめてっ！ 妊娠しちゃうっ！」
「それだけは嫌だからっ！お願いっ、ああ、お願いひいひいっ……！！」
麗美、中出しされて、
「くひゅあっ！！ あ、きひいひいーっっ！！！」
「あ、あああっ、出てるっ、お腹の中に精液っ！ びしゃあって、いっぱい……」
「どうしよう……本当に妊娠しちゃう……」
「はーっ、はあーっ、はーひっ、ひーはっ、あ、うう……」
「ま、まだするの……？ 少し休ませて……って……ひやうっ！？」
麗美、アナルをいじられて、
「ちよっ、ちよっっ！ どこ触ってるのっ！？ そっちは……」
「その、えっと……お、お尻の穴でしよっ……！！？」
「え……？ こっちでも感じるようになれ……？ 無茶苦茶言わないでよっ！」
「誰がそんなところで……！ ひゃ、く、くすぐったいっ……！！」
「だ、だからっ……や、やめっ、ひやうっ、あ、あひやううっ！」
「そんなっ！ こねこねしないでっ、お尻っ、お尻だからあっ……！！」
「きやうっ！？ ゆ、指なんて入れないでっ！」
「気持ち悪いっ！ 気持ち悪いだけだからっ！ あううっ、お願いだから、やめてえ……！！」
「やめ、やめえっ、え、ええっ……ぐすっ、もう許してよお……」
「ぐすんっ、ひっく、うえ、うええ……」
「あなたたちの目的は、身代金でしょ……？」
「だったら、パパに言って、いくらでも用意させるから……」
「ひっ、ひんっ、えぐっ、うえあ……だから、もう帰してよ……！！」
「私をなぶったことは、不問にするから……」
「ダメだ……って、そんなあっさり……！！？ ひどい！」
「だって、本当にひどいと思わないのっ！？」
「食事はドッグフードで、寝るのは雑魚寝！ 起きてる間は、ひたすらセックス！」
「奴隷にはお似合いだ……って！？ 私が、いつあなたの奴隷になったの！？」
「冗談じゃないわ！！」
「感じてきてるだろう……って……そりゃ……あれだけ立て続けにされれば……その……」
「悔しいんだから……いいように開発されて、私……」
「う、うううっ……泣けるぐらい……悔しいのよ……！！？」

「えぐっ、うあつ、あ、ああ、うあーん、うああーん……!!」

「ぐすっ、ひっく……何よ……泣いてる暇があるなら、尻を振れ……?」

「この鬼畜! 人でなし! あんたには、人の心つてのがないのっ!」

「ないかもな、って……そんな……」

「あうっ……! ? け、結局、またするの……?」

「だから、せめて少し休ませて……って、ふわああっ……!」

「お、お尻はもうダメだからねっ……! ? やってもムダなんだから……!」

麗美、再度愛撫されて、

「んあうっ、は……くふっ、あ、あいいっ……!」

「ふあっ、んふはああつ、あ、あうっ……!」

「ど、どこが気持ちいいか、言え……ですって……?」

「そんな、そんな恥ずかしいことっ、言えるわけないでしょっ……!」

「何考えてるのっ……! ?」

「んふわっ、あ、あいいっ……! ひやうっ! ? ちょっ、ど、どこさすってるのっ! ?」

「そ、そこはっ! おしっこの穴っ! おしっこの穴よおっ!」

「そんなっ、されたらあっ……! !」

「やめっ、やめっ、やめっ、え、えああっ……! !」

「そんなっ、したらっ、だめえっ……! !」

「んあっ、んはああつ! ダメっ! ダメダメダメえっ! !」

「したくなっちやうっ! おしっこしたくなっちやうううっ! !」

「くひやっ、あ、あああつ、出るっ! 出ちやうっ! 漏れちやうっ!」

「おしっこ漏れちやうううっ! ! んひやっ、あ、ああつ、ひ、あ……! !」

SE:放尿の音

「いやああああーっ! ! 出ちやったっ! ああ、おしっこ出ちやったっ!」

「あひっ、ひあつ、いっぱい出るっ! 出ちやうっ! ! 嫌、嫌あああつ……! !」

「んあっ、んああつ、まだ出るっ、もっと出るっ、ダメっ、止まらないっ、止まってええ……! !」

「はあ、はあっ、あ、ああ……やっど……止まったあ……」

「う、うう、あんた……とことん悪趣味ね……」

「楽しい? 私をこんなに辱めて、楽しいっ! ? ねえっ! !」

「あーそう、楽しいって? この……腐れ外道っ……! ! う、うううっ……! !」

「ふふふ、今日もするんでしょ？ セックス。毎日だものね。して？」

「えっ？ 今日が何日か、気にしないのかって？ どうでもいいわ、もう」

「ねえ、そんなことより、早くしましうよ。身体がうずいて仕方ないの。ねえ……」

麗美、キスをされて、

「んっふ……ちゅ、くふうん……ちゅむっ、れろ、くちゅう……ん、むぶう……」

「はむちゅっ、れろむっ、んちゆるう……むちゅ、んぷふあ……」

「んぱあっ……！ キスだけで、もう濡れちやいそう……。でも、もっと……して？」

麗美、愛撫を受けて、

「はうんっ……！ ん、んああっ！ おまんここねこねえ……気持ちいいっ……！」

「やんっ、すぐ濡れちやうっ、いっぱい、いっぱい……！」

「んあっ、あ、はあんっ！ ふわうっ、あうっ、はううんっ……！！」

「はあっ、はあふっ、はふあああっ、あんっ！ ああんっ！」

「もっとうっ！ もっと気持ちよくしてっ！ おまんこいっぱい溢れさせてえっ……！！」

「あっ、あっ、あっ、あっ！ ん、んああっ！」

「音おっ……いやらしい音おっ……くちゅくちゅって、おまんこが泣いてる音おっ……！！」

「ふはうっ、はうっ、あはうううっ！ んっ！ んいひっ！」

「そ、そおっ……！ 指でぐちゅぐちゅうっ……かきまわしてえっ……！！」

「はーふっ、はああーふっ、はひっ、ふへあっ、あ、ああっ……」

「止まらない……泣き虫おまんこ、よだれが止まらない……！！」

「ああ、熱い、熱い……おまんこ熱い……！！」

「いっぱい泣いてるの、分かるでしょ？」

「おちんぼ欲しいって、めそめそ泣いてるのお……！！」

「入れて？ もう大丈夫だから、欲張りおまんこに、おちんぼで栓して……？」

麗美、挿入されて、

「んはっ……あ、あふはあああっ……！ 入るうっ……！！」

「熱いの、もっと熱いのお……おまんこいっぱいに入るのおっ……！！」

「はああうっ……！ 根元まで入ったあ……！！」

「ん、んんうっ、お腹の中で、どくどく……ステキ……」

「ふうっ、ふうっは、ふはうっ、あ、ああ……動いて……？」

「奥までぐちよぐちよの、私のいやらしいおまんこ、おちんぼでいっぱいかき回して……？」

麗美、抽送を受け、

「んひやはううっ！ あはうっ！ あんっ！ あはあんっ！」

「んっ、んいいっ！ いいっ！ いひいっ！ こす…れ、るうっ！」

「くひやうっ、あ、あはううっ！ あうんっ！」

「はっ、はひいいいっ！！ 感じるっ！ おまんこスゴイっ！ すごい感じるうっ！！」

「ああ、恥ずかしいっ！ いやらしい音っ！ いっぱい聞こえるっ！」

「おちんぼがっ！ おまんこかき回す音っ！ ぐちゅぐちゅっ！」

「ああ、ぐちゅぐちゅのずぶずぶっ！」

「はひっ、はひあつ、あ、あいいっ！ いんっ！ いひんっ！」

「奥っ！ 叩いてっ！ ずんずんっ！ 子宮っ！ 入り口っ！」

「一杯ノックされてえっ……！！」

「ひーはっ、ひいいーはっ、ひはっ、ふへっ、くひやうっ！」

「気持ちいいっ！ おまんこスゴイっ！ すぎるのっ！」

「気持ちいいっ！ 気持ちいいのほおおっ！！」

「ああ、あああつ、あひっ、あひあつ！ 熱いっ！ 熱い熱い熱いっ！！」

「おまんこ焦げちやううっ！！」

「ひはあつ、ひはあああつ！ あんっ！ ああんっ！ すごっ、お、おほおおっ！」

「来るっ！ 来ちやうっ！ 飛ぶっ！ おまんこ飛んじやううっ！！」

「イクのっ！ 来るのっ！ 来ちやうのっ！ おまんこ溶けるっ！ 溶けちやうっ！」

「イクっ！ イクイクイクううううっ！！」

「あん出るっ！ 出ちやうっ！ 漏れるっ！ おしっこ漏れちやうっ！」

「おまんこと一緒にっ！ おしっこ出ちやうううっ！！」

「イクっ！ イクイクイクっ！ 出るっ！ イキながらおしっこっ！ 出るのっ！」

「イクのっ！ いっしょにっ！ いっしょにいいいっ！」

「はひっ、はひあつ！ 出るっ！？ 精液出るっ！？」

「また中っ！？ 嫌よっ！ 中なんてっ！ 中出しなんてっ！」

「そんなひどくてステキなことっ！ しちやうのっ！？ するのっ！？」

麗美、絶頂

「——かひゅっ！！ イッ、くううう——っ！！」

SS：放尿の音

「あっ！ あああああっ！！ 出ちやったっ！ イキながらおしっこっ！」

「おまんこ溶かしながら、おもらしっ！ しちやったあっ！」

「ひあつ、ひあああつ、あ、あんっ！ 出てるっ！ 子宮に精液っ！」

「中出しっ！ 中出しアクメっ！ 中出しアクメキメちやてるうっ……！！」

「はーひっ、はああーひっ、ひはっ、まだ出るっ、おしっこまだ出るっ、いっぱい出るのっ、気持ちいいのっ、おまんこスゴイのお……！！」

「ふーはっ、ふうーはっ、へはっ、あ、ああ……しゅごいい……」

「おまんこ完全に溶けちゃったあ……」

「はあっ、はあふっ、ふはっ、ひへあっ……まだ……するでしょ……？」

「穴はまだ一つ、残ってるし……」

麗美、アナルをいじられて、

「あうんっ……！ お尻の穴あ……気持ちいい……。いっぱいほじつてえ……」

「んあっ、は、あふううっ……！ やあっ、そんな広げちゃあ……恥ずかしい……」

「すっかり柔らかくなったな、って？ もうっ、そうしたのは誰よ……」

「んああ、お尻ホジホジ、気持ちいい……！」

「ね……いけるでしょ？ ちようだい？ お尻の穴に、おちんぼ……入れて？」

麗美、アナルに挿入されて、

「んはうっ……！ あ、入るうっ……！ お尻におちんぼお……！」

「はぐうっ、あ、あああ……お尻い……いっぱいに広がってえ……いい……」

「動いて……？ えっ！ えああっ！ あっ！ あひいいいっ……」

麗美、激しい抽送を受け、

「あぐんっ！ あはぐふうんっ！ ふぐっ！ うはっ！ うあはああっ……」

「あんっ！ あはあんっ……！ すごっ、お、んおほおおっ……！」

「お尻の穴っ！ お尻の穴っ！ お尻の穴あっ！ 感じるっ！ すごく感じるうっ……」

「んがふっ、かはっ、くひうううっ……」

「えっ！？ もっと言い方があるだろう、ってっ！？ うんっ！ うんうんうんっ……」

「んああっ、ケツマンコっ！ ケツマンコすごいっ……」

「おちんぼズボズボされてっ！ すごくいいっ……」

「ひぐっ、ひぐうううっ！ あっ！ あひいいいっ！ 子宮っ！ 子宮の裏側にっ……」

「おちんぼがこっこつ当たるのっ！ それがいいのおっ……」

「もっとケツ穴っ！ ケツ穴ズボズボしてっ……」

「いっぱいっ！ いっぱいいいいいいいいいいっ……」

「んぐふおおおっ……！ おがっ！ んおがはあっ……！ はぐっ、んはぐふううっ……」

「ぎぼちいいいっ……！ ぎぼちいいいっ……」

「ケツマンコすごいひっ……！ お腹が引きずり出されそうでっ……」

「んはぎゅうっ……！ がふっ、ぐふはああっ……」

「ケツ穴っ！ ケツ穴すごいのっ……」

「もっとおちんぼっ！ もっともっともっととおおおおおっ……」

「ふがうっ！？ がはっ、く……かひゅううっ……！ あぐんっ……」

「んっ、んっ、んっ、んっ！ はーっ、はああーっ、はひっ、はひあっ……」

「あ、あああっ、頭がっ、クラクラするっ……」

「おまんことは違った気持ちよさでっ！ ケツ穴のトリコになっちゃううっ！！」
「ふっ、ふっ、ふっ、ふうっ！」

「あ、あああっ！？ おちんぽがっ！ また膨れ上がってっ！」

「出るのっ！？ 出してくれるのっ！？ 精液っ！」

「ああ、ケツマンコにも精液いいいいっ！！」

「はぐうっ！！ わ、私もっ！ 来るっ！ 来ちゃうのっ！！」

「ケツマンコでイクっ！！ ケツアクメっ！ ケツアクメ、キメちやうのおおおおっ！！」

「あんっ、来るっ！ ほんとにつ！ 来ちゃうっ！」

「イクっ！ イグイグイグイグうっ！！」

「ケツマンコお……飛んじやつ、あひいいいいっ！！」

麗美、絶頂

「——かひいいっ！！ イッ、ぐううう——っ！！！！」

「んおあっ！ あっ！ あいいっ！ 出てるっ！」

「ケツマンコに精液っ！ いっぱいっ！ どくどくってっ！！」

「んああっ、いっぱい注がれてるうっ……！！」

「はあひっ、はああひっ、ひはっ、イッてるっ！」

「私っ！ ケツマンコでイッてるうっ……！！ す、てきい……！！」

「ふーはっ、ふううーはっ、ふはうっ、は、んぐふはああっ……！！」

「すごいのお……頭がおかしくなっちゃうのお……ふわあ……」

「ふー……はあー……あ、ああ……少し……休ませ、て……？ ね……？」

「……っ……」

麗美、ふと我に返って、

「私……これから、どうなるんだろう……」

「あんっ……？ ま、またするの……？ ひあっ、あ、あひいいいっ……！！」

「えへ、えへへへ……おちんぼちよーらいっ！　ちよーらい、ちよーらいっ！」
 「わあい♪　びきびきの、ステキおちんぼらあっ♪　まずは、おくちでするね？」
 「あーん、もむっ、はもおっ……もむ、くちゅ、じゅるう……」

「はむおっ、んもむっ、れろ、れろれろれろ……」

「ん、おいひい……おちんぼ、しゅごくおいひい……」

「んくぶっ、くぼむっ、んっぶ、れろ……んぢゅるうっ！」

「ずずっ、ずびっ、れろむっ……んじゅるっ、んぐんぐ……ふわあ……」

「んふーっ、んふうーっ、じゅぷっ、くちゅぷっ、んもむっ、れろっ、んぷうっ」

「くぷっ、んぶふうっ……おいひい、おいひいのお……」

「じゅるむっ、んくちゅっ、れろ……んんんっ」

「熱くへえ……臭くへえ……しゅごく、しゅてきい……☆」

「じゅぷるっ、くちゅるっ、んぐうっ、んぐんぐ……」

「んれろっ、れろむっ、はあっ、はああっ、おちんぼしやぶってるだけでえ……」

「おまんこ、すごいことになっちゃうよお……」

「でもでも、もっとするのっ！」

「おちんぼから、とろとろザーメン、麗美のお口に、飲ませてもらうのお……!!」

「じゅるるうっ、んじゅぷっ、んごくっ、れろんっ、んれろおっ……」

「はあっ、おちんぼおいひい……おいひいおちんぼお……」

「むふーっ、んむふーっ、ああっ、しよっぱいのが出てきたあ……!!」

「飲むよ？　んずっ、ずずずっ、んぐん……んんん、おいしい……♪」

「もっど、もっど飲ませて？　いいよね？　ね？　ね？　ね？　ね？　ねっっ？」

「んふむもおお……もむっ、んずるっ、れろれろれろお……」

「ずびっ、ぢゅるうっ、れろ……んごくっ、あはっ、おちんぼ、びくびくしてきた」

「出して？　麗美のお口に、いっぱい飲ませて……？」

「じゃあ、しあげ……するね？　んずるうううっ！」

「じゅるむっ！　んずびっ！　じゅるびっ！　んぐんっ！　んぐふうんっ!!」

「あはあっ、出してっ、出してっ、ザーメン出してっ、飲ませてザーメンっ」

「ねばねばの、とろとろの、臭くておいしいザーメンンンン……!!」

男、射精

「ふむおとおおおっ!!　もご……れた……出てくれたあ……!!」

「じゅるっ、ずずっ、んくん……」

「かみかみかみかみかみかみ……ごくん……おいしいっ♪」

「とってもおいしいっ……」

「ねえねえねえねえ、次はおまんこ！ おまんこにおちんぼっ！」「ちようだい？ くれるよね？ ねえ？」

「んああ…麗美のおまんこなら、もうばっちりだよ？」

「おちんぼ舐めてるだけで、ほら……」

「こんなにとろとなつて、わんわん泣いちゃって……」

「だからちようだい？ おまんこに、ザーメンごくごく飲ませて？ ねえ？ 早くう」

麗美、挿入されて、

「んきやはあああっ！！ 入るっ！」

「おまんこにおちんぼ入るううううっ！ しゅぐ、お、んおほおおっ……！！」

麗美、抽送を受けて、

「あぐんっ！ んんっ！！ んいあっ！ あああんっ！」

「あんあんあんあんあんあんっ！！ きっ……もちいいいいっ！！」

「ぐひいんっ！ あぎひっ、ぐふっ、んぶひいっ！！ しゅぐいっ！」

「おちんぼしゅごいひっ！ とろとおまんこっ！ いっぱいかき回してえっ！！」

「うんっ！ うんっ！ うんうんうんうんうんうんうんうんっ！」

「ぎぼちいいっ！！ ぎぼちいいよっ！！ あらま(頭)にずんずんくるよほおおっ！！」

「ひぎやつ、んひぎやおっ、ぎやはっ、ぐひやあっ！！」

「しゅぐ、お、んほおおおおっ！ えっちい音がはあっ……」

「ズボズボ聞こえりゆうっ……！！」

「もっとっ！ もっともっともっともっともっともっともっとおおおおっ！！」

「おまんこかきまわしてっ！ おちんぼでっ！ おまんこいっぱいしてえっ！！」

「ひは、ひはっ、ひはあっ、すごいつ、すごすぎっ、ぎひっ、いへあっ、あ、ああっ」

「イクっ！ すぐイッちゃうっ！！ 出してっ！ おまんこにザーメンっ！」

「とろとろのザーメン飲ませてえっ！！」

「あんイクっ！ ホントにイクっ！！ はひいっ！ イクのっ！」

「イグイグイグイグイグイグウっ！！」

「はひゅあっ、あ、出るっ！？ 出してくれるっ！？」

「出してっ！ 麗美も出るっ！ おしっこ出るのっ！！」

「おもらししながら、おまんこイクのおっ！！」

「ひはっ、ひはあっ、へはっ、ひやうううっ！」

「ほんっ……と、にいっ……イッ、く……イッちゃ……うはああああっ！！」

「おまんこ飛ぶっ！ 溶けりゅっ！ 焦げりゅっ！ 飛ぶのっ！」

「イクのっ！ おしっこいっしょにっ！ ああ、出りゅっ、イグっ」

「んお、ほ、あ、は、ひ——」

麗美、絶頂

「~~~~っ、んひゅううっ！！ イッ、ぐはああああ~~~~っ~~~~っ！！」

♀：放尿の音

「ふやあっ、あ、出たあっ……！」

「おまんこ溶けちゃってえ、おしっこもれちゃったあ……」

「気持ちいい……いっぱい出りゅよお……」

「はひ、はひあ、あ、ああ……おまんこにザーメンう……」

「出てる、出てるう……しゅごいのお……おまんこ、ごくごくのんでののお……」

「ふーは、ふうーは、ふはあ……ちゅぎい……お尻にちようだい……」

「おケツマンコにも、ザーメンのませてえ……！」

麗美、アナルを愛撫されて、

「んきやはあっ……！ いい、いいよお……！」

「お尻ホジホジ、すごくわくわくすりゅう……♪」

「麗美のお尻はあ、おちんぼを入れるための穴でしゅう」

「いっぱいザーメン、飲ませてくらしやい……♪」

麗美、アナルに挿入されて、

「んにやはあああっ！！ はいりゅっ！ あにやるにおちんぼっ、はいりゅっ！」

「はいりゅのおっ……！」

「んおお……全部入ったあ……！」

「おケツマンコが、いっぱいに広がってえ……すごくステキい……！」

抽送開始

「ね……動い……てへえええええっ！ えへっ！ えへあっ！ あっ！ あいいっ！」

「いんっ！ いひいんっ！ しゅごっ、しゅごっ、んお、おほおおおっ！！」

「うんっ！ うんうんうんうんっ！ しゅごいのっ！ おケツマンコっ！」

「おケツマンコいいっ！ いいよおっ！ もっとズボズボしてえっ！！」

「んおっ、んおほっ、ほはあっ！ あっ！ あぎひいいっ！ いんっ！ いひいんっ！！」

「おケツマンコ熱いひいいいっ！！」

「もっとっ！ もっともっともっともっともっともっともっとおおおおっ！！」

「お尻っ！ 壊れちゃってもいいからあっ！！」

「んごほっ！ んおうっ！ ぐほうおおおっ！！」

「ぎぼちっ、ぎぼちいいっ、いひっ、いひへっ、へあっ、あ、あああっ！」

「あらま（頭）あ……くらくらしゅりゅう……！」

「うんっ、うんっ、うんうんうんうんっ！ イクっ！ おケツマンコでイクっ！！」

「ザーメンっ！ 飲ませてっ！ おケツマンコにもっ！」

「いっぱいザーメン飲ませてえっ！！」

「ふぐんほおおっ！！ イグっ！ イグイグイグうっ！！」

「おケツマンコ飛ぶっ！！ 溶けるっ！ 飛んじやうっ！！」

「んひっ、へはあつ、りゆりやつ、れっ、るはっ、か、き、くっ……」

「くくっ！！ んぐほおおおおっ！！ イッ、ぐはああああーっ！！」

「うほっ、うほあつ、あ、あおおっ！ 出てりゅっ！ おケツマンコにザーメンっ！！」

「どくどく出てりゅっ！ しゅごいのっ！ しゅごいのほお……！！」

「ぜーはっ、ぜえーはっ、ぜはっ、ひはっ、ふわ、ああ……」

「穴三つにザーメン飲ませてもらって、麗美、しゃーわせえ……」

「……ふにゃ？ 仕上げだって、どういふことお？ うん？ お注射するの？ んつつ……」

SD:心臓の鼓動音（×3）

「きやはっ……！？」

「うあ、あ、あああ、あひやうっ、んひやはあああああつっ！！！」

SD:放尿の音

「あひいいいいっ！！ おしっこ漏れちゃったっ！ そんなやつ！」

「おしっこでイッてるっ！ おしっこで、おまんこ飛んじやつてりゅうっ！？」

「あは、あはは……あ、またしてくれるの？ んあ、は……」

麗美、再度挿入される

「あ、入るう……んあっ！？ いひいひ……っつっ！！！」

「あっ！ あああっ！？ い、いいい、入れてもらったただけでっ、イッてるっ！」

「麗美い……いっばいイッてりゅう……！！」

再度抽送開始

「んひやうっ！ あうっ！ はがうふううっ！！」

「しゅごっ、しゅごっ、んおっ、んおほおおっ！！」

「んひっ、ひとこすりっ！ ごとにっ！！ おまんこっ！ おまんこ飛ぶのっ！？」

「あんイグっ！！ イグイグイグうっ！！ あへ、あへあつ、んお、んおほおおっ！！」

「いっばいっ！ いっばいっばいっばいっばいっばいっばいっばいっ！！」

「おまんこ飛ぶのが止まらないよおおおおっ！！」

「あはっ、あははっ、へはっ、ひははははっ！ あはっ！」

「しゅごしゅぎっ、なんか楽しいっ！ おまんこイキすぎて、なんか楽しいよおっ！」

「うんっ！ うんっ！ うんっ！ んんっ！ しゅごいひっ！ しゅごしゅぎひっ！！」

「おかしくなりゅっ！ 身体中おまんこになっちゃうううっ！！」

「あへっ、あへあつ、きひやつ、きひやうううっ！！ おかしくなりゅっ！」

「バカになっひやうっ！ おまんこバカになりゅうううっ！！」

「麗美のこと、ザーメンまみれにしてええええええつ!!」

「おもらしおまんこ、いつぱい溶けりゆのっ！」

㊦ 放尿の音

「おしっこでイクっ!! おちんぽでイクっ!!」

「あつ！ あああつ！ まだ出るっ！ まだ出るおしっこつ！」

「ふーっ、ふううーっ、んふーっ、ふむーっ、んあ、は、へにやあ……」

「非公開」

SE:  (非公開) 

SE: (非公開)

「(非公開)」

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して

椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラックスした状態でお聞き下さい」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり、物にぶつかるなどして怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかずスピーカーから大音量で本作品を再生した場合

あなたの人生に深刻な問題を発生させる恐れがありますので

くれぐれもご注意ください」

「・・・それでは、本編をお楽しみ下さい」

「この度は体験版をダウンロードいただきありがとうございます」

「体験版をご試聴いただき、気に入っていただきましたら

製品版をご購入いただけるととてもうれしいです」

「今後ともサークル、ケチャップ味のマヨネーズをよろしく願いたします」